

## 令和2年度 山形県行政支出点検・行政改革推進委員会 第3回会議 意見概要

◇ 日 時 令和2年10月9日（金） 16：15～17：00

◇ 会 場 e-ミーティングルーム

◇ 出席委員

委員長 砂田洋志

委 員 石原敏之、小口裕之、中鉢美佳、山口良子

（欠席：尾形律子、小関健太郎、樋口恵佳）

〈五十音順、敬称略〉

### ◆委員の主な意見等

#### 議事（1）「新たな行財政改革推進プラン」について

（石原敏之委員）

日本全国で様々な災害が起きている。山形でも最上川の氾濫があったので、「県民の安全・安心を守る危機管理体制の充実・強化」という項目の「強化」という点をもっと前面に出していいのではないかと。

（小口裕之委員）

新たな働き方、新たな県民サービスを上げるためには、県職員のマンパワーが必要。特に災害時の体制について、県民は不安に感じている部分があるので、必要な体制の確保、災害に対応できる人材の確保・育成をお願いしたい。

（中鉢美佳委員）

オンライン教育について、先生方は教材の作り方で悩むと思うので、先生方のサポート体制を構築していただき、また、子どもたちが積極的に勉強に取り組める雰囲気づくりを進めていただきたい。

女性職員の活躍推進について、男性職員の活躍や、年齢にとらわれず、多くの職員の活躍を推進する意味も込めて、女性職員に限定した記載にしなくてもいいのではないかと。

（山口良子委員）

「県民の安全・安心を守る危機管理体制の充実・強化」について、具体的な取り組みとして河川整備などを進めていくという文言を記載してはどうか。

また、県は難しい仕事をしているイメージがあるので、中学生や高校生が県の行政に興味を持てるよう、県のSDGsの実現に向けた具体的な取り組みを知ってもらえるような記載にしてはどうか。

デジタル化の取り組みにより、ペーパーレス化を図り、環境に優しい県の行政運営としての見せ方をしてはどうか。

## ま と め

(砂田洋志委員長)

将来、山形県の人口減少は避けられそうにないことと厳しい財政状況を考えると、今後の県職員の適正な人数は、県民の理解を得るという視点を欠くことなく、県庁内でしっかり検討し続けることが必要である。

また、社会経済環境も変化するとともに、業務内容も変化している。その一方で県民サービスの質を維持するためには業務の効率化と行政のデジタル化が必要である。

委員からの意見を踏まえた上で、新しい行革プランの策定に向けて、特に重要な取組みである行政のデジタル化と多様で柔軟な働き方の推進に力を入れて検討を進めていただきたい。